

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年3月31日
北海道運輸局

評価対象事業名: 令和2年度地域内ライダーシステム確保維持費用庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局における二次評価結果		備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
砂川市地域公共交通協議会	ふじ観光株式会社 北星三星交通株式会社 (旧株式会社三星)	予約型乗合タクシーの運行 ・北エリア① ・北エリア② ・南エリア ※市内全域を3エリアに区分し、2社が1か月交替で担当	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況 広報紙やホームページ、老人クラブの交通安全教室などで乗合タクシーの利用方法等の周知に努めている。運転免許証自主返納者に対する補助など利用促進につながる事業を引き続き実施している。	A	B			・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。 ・目標を達成することはできなかったが、引き続き、高齢者福祉政策と連携した取組を継続いただくとも、持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。 ・今後も継続的に維持していくためにも、地域公共交通計画を策定することを強く期待する。	



砂川市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

砂川市は過疎地域に指定されており、近年は高齢化による交通手段の確保が顕著な問題となってきた。市民の生活移動を支える路線バスは国道と道道のみを運行していることから、交通空白地域が多く存在している。交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通の確保を目的として、路線バス及び都市間高速バス、JR函館本線とを接続することにより、利便性の向上を図り、地域公共交通の確保・維持・改善に向けた取り組みを継続している。

生活交通確保維持改善計画の目標

運行を継続し、交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通を確保していく。
・1便当たりの利用者数 1.9人(直近年度の実績1.88人)
・ライダー対象地区の人口に対する利用者数の割合 55.7%(直近年度の実績55.5%)

令和2年度事業概要

- ・運行方式 予約型乗合タクシー(区域運行)
- ・運行系統 北エリア①(一の沢地区・北光地区等)、北エリア②(富平・空知太地区等)、南エリア(吉野・日の出・豊沼地区等)
※市内全域を3エリアに区分し、タクシー事業者2社(ふじ観光株式会社)が1か月交替で担当
- ・運行日・便数 3エリアとも毎日運行、平日 往復6便、土日祝 往復4便
- ・運賃 一の沢・空知太・富平地区(大人500円・中学生以下100円)、左記以外の地区(大人300円・中学生以下100円)

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(砂川駅、豊沼駅)
- ・北海道中央バス(株)(都市間バス1路線、近郊路線5路線)
- ・タクシー事業者2社(ふじ観光株式会社、北星三星交通株式会社)

協議会開催状況

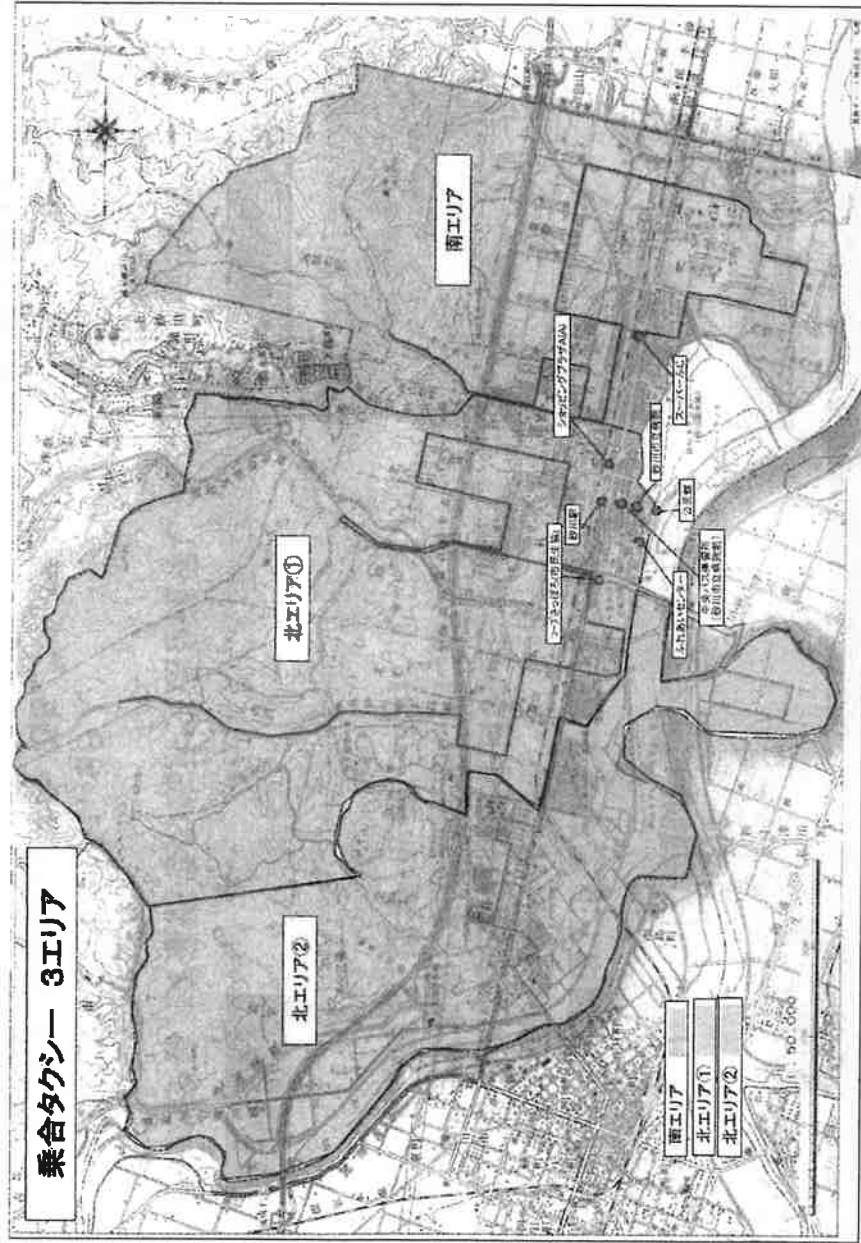
- 令和2年5月22日 第1回会議を開催(書面)
- ・砂川市予約型乗合タクシー運行方針等について
- 令和2年6月12日 第2回会議を開催(書面)
- ・令和3年度砂川市生活交通確保維持改善計画(案)等について
- 令和3年1月6日 第3回会議を開催(書面)
- ・令和2年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和2年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

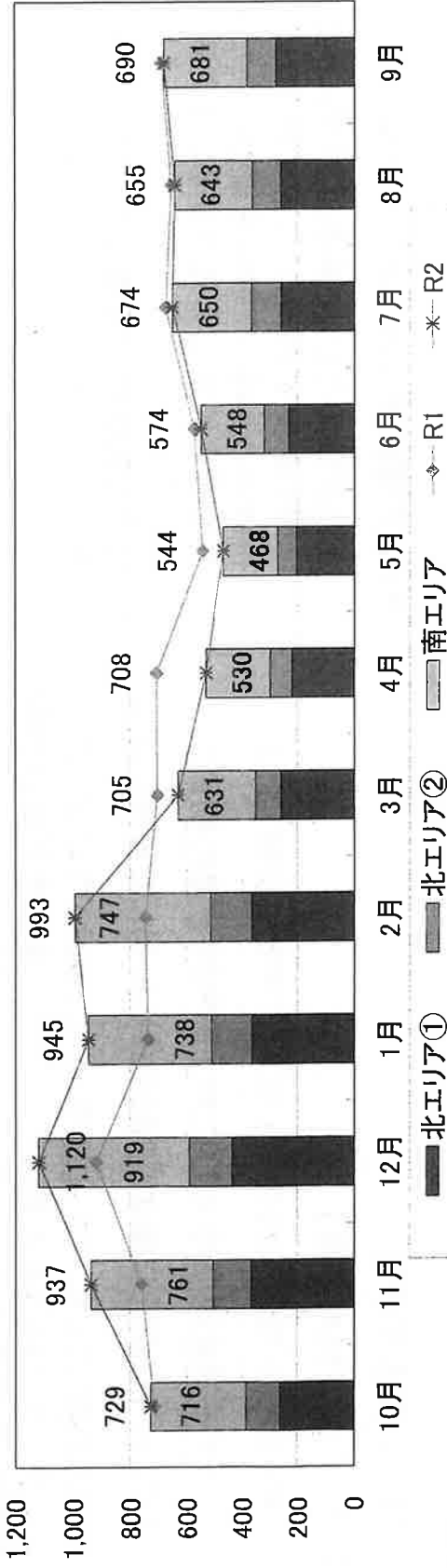
・市広報紙、老人クラブ等での周知活動

2) 運行系統



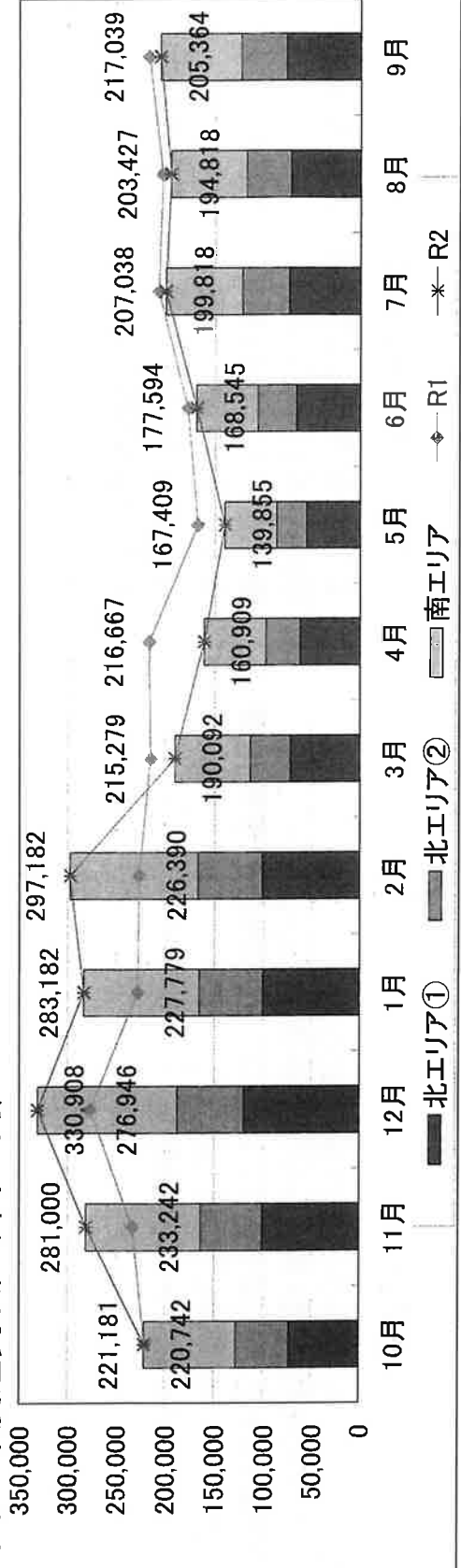
3) 利用実績

令和2年度利用者数(単位:人)



4) 収入実績

令和2年度運賃収入(単位:円)



5) 事業実施の適切性

- 計画どおり事業は適切に実施された。
- 以下のとおり、計画どおり事業を実施した。
 - ・運転免許証自主返納者に対し、3,000円分の予約型乗合タクシー無料利用券を進呈
 - ・高齢者福祉施策との共同実施

7) 事業の今後の改善点

登録者の利用に結び付くよう、今後も乗合タクシーの丁寧な説明等を行っていく。
新たなまちなか乗降地を設定することで利便性を向上し、利用者数の増加を図る。
交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通を確保するため運行を継続していくとともに、必要に応じた改善に取り組んでいく。

6) 目標・効果達成状況

【1便あたりの利用者数】

目標1.9人(直近年度の実績1.88人)に対して実績1.81人

【ライダー対象地区の人口に対する利用者数の割合】

目標55.7%(直近年度の実績55.5%)に対して実績53.6%

目標値に達していない主な理由として、南エリアにおいて、人口減に伴い利用者が減っていること。高頻度利用者の利用終了(死亡等)があったことなどがあげられる。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・目標を達成することはできなかったが、引き続き、高齢者福祉政策と連携した取組を継続いただくとともに、持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につなげる目標を設定することもご検討いただきたい。
- ・今後も継続的に維持していくためにも、地域公共交通計画を策定することを強く期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年3月31日
 北海道運輸局

評価対象事業名: 令和元年度地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局における二次評価結果		備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
砂川市地域公共交通協議会	ふじ観光株式会社	予約型乗合タクシーの運行 ・北エリア① ・北エリア② ・南エリア ※市内全域を3エリアに区分し、2社が1か月交替で担当	広報紙、ホームページなどで乗合タクシーの利用方法等の周知を行うとともに、平成31年度より、老人クラブの交通安全教室の際にチラシを配布し、さらなる周知に努めている。運転免許証自主返納者に対する補助など利用促進につながる事業を引き続き実施している。	A	B	⑥事業の今後の改善点 利用者数は目標値を達成できていないが、直近年度の実績値より増えている。運転免許証自主返納者の増加が顕著であり、乗合タクシー利用登録申請件数も増えていることから制度は定着していると考えられる。登録者の利用に結び付くよう今後も制度の丁寧な説明、意見の聴取等を行っていく。	(令和2年度分と併せて評価)		
	株式会社三星								
	砂川北星ハイヤー株式会社								

砂川市地域公共交通協議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

砂川市は過疎地域に指定されており、近年は高齢化による交通手段の確保が顕著な問題となってきている。

市民の生活移動を支える路線バスは国道と道道のみを運行していることから、交通空白地域が多く存在している。

交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通の確保を目的として、路線バス及び都市間高速バス、JR函館本線とを接続することにより、利便性の向上を図り、地域公共交通の確保・維持・改善に向けた取り組みを継続している。

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(砂川駅、豊沼駅)
- ・北海道中央バス(株)(都市間バス1路線、近郊路線6路線)
- ・タクシー事業者3社(ふじ観光、三星、砂川北星ハイヤー)

生活交通確保維持改善計画の目標

運行を継続し、交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通を確保していく。

- ・1便当たりの利用者数 2,08人(直近年度の実績1,75人)
- ・年間利用者数 10,400人(直近年度の実績8,298人)

協議会開催状況

- 令和元年5月29日 第1回会議を開催
- ・砂川市予約型乗合タクシー運行方針等について
- 令和元年6月17日 第2回会議を開催(書面)
- ・令和2年度砂川市生活交通確保維持改善計画(案)等について
- 令和2年1月8日 第3回会議を開催(書面)
- ・令和元年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和元年度事業概要

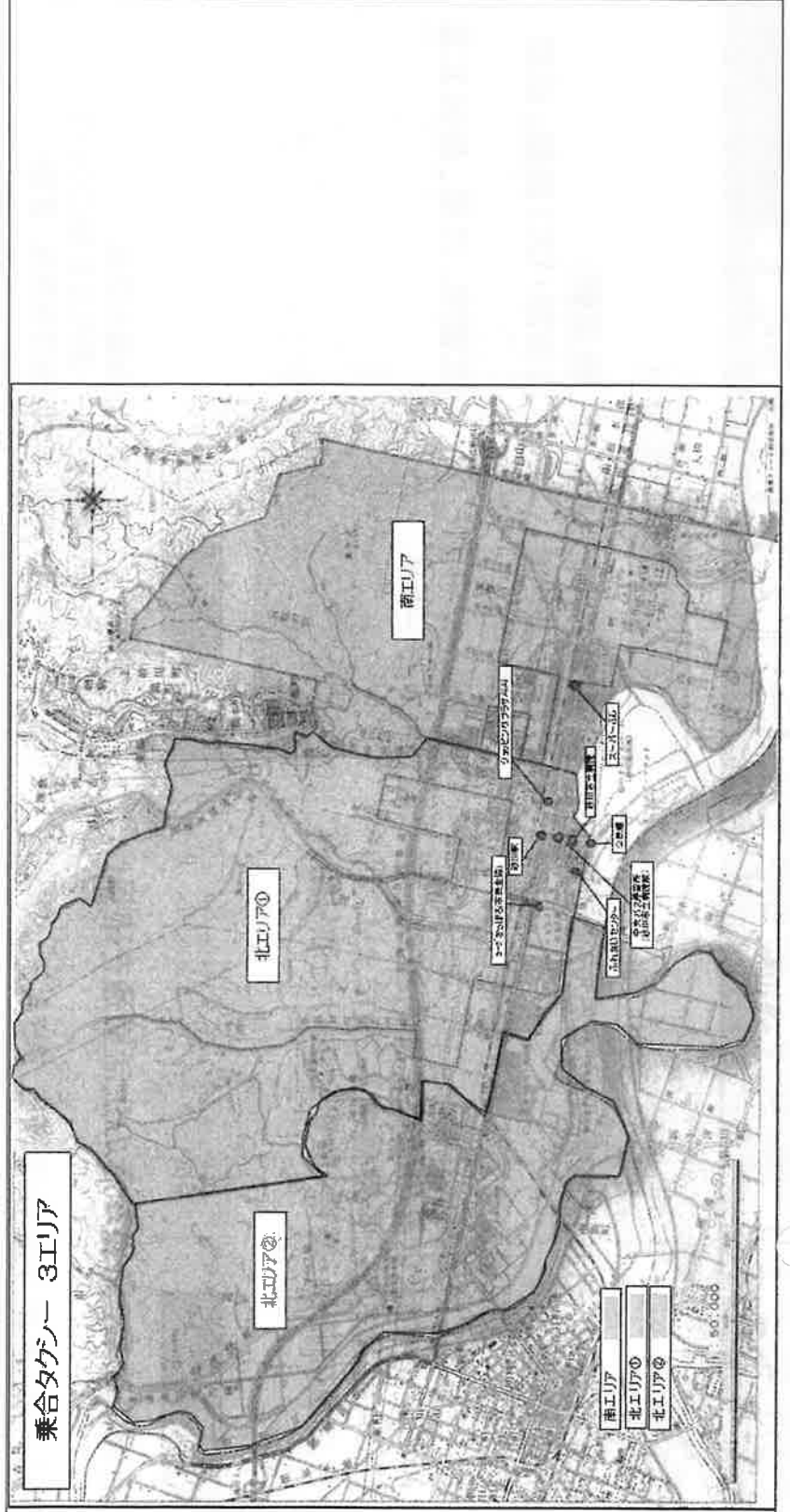
- ・運行方式 予約型乗合タクシー(区域運行)
- ・運行系統 北エリア①(一の沢地区・北光地区等)、北エリア②(富平・空知太地区等)、南エリア(吉野・日の出・豊沼地区等)
※市内全域を3エリアに区分し、タクシー事業者3社(ふじ観光、三星、砂川北星ハイヤー)が1か月交替で担当
- ・運行日、便数 3エリアとも毎日運行、平日 往復6便、土日祝 往復4便
- ・運賃 一の沢・空知太・富平地区(大人500円・中学生以下100円)、左記以外の地区(大人300円・中学生以下100円)

令和元年度事業の実施状況

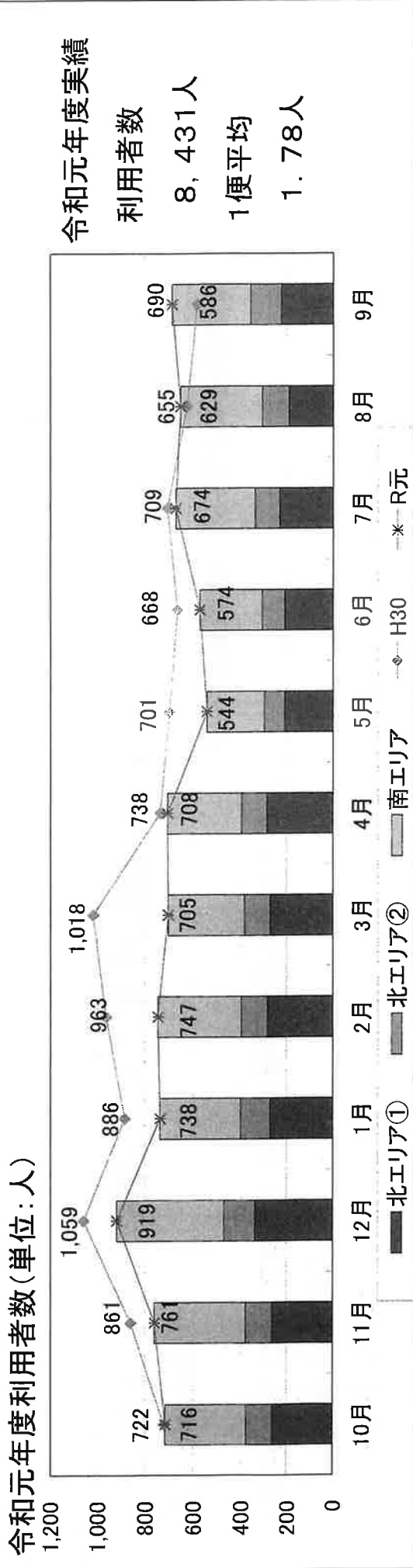
1) プロセス、創意工夫

- ・市広報誌、老人クラブ等での周知活動
- ・運転免許証自主返納者に対し、3,000円分の予約型乗合タクシー無料利用券を呈呈
- ・高齢者福祉施策との共同実施

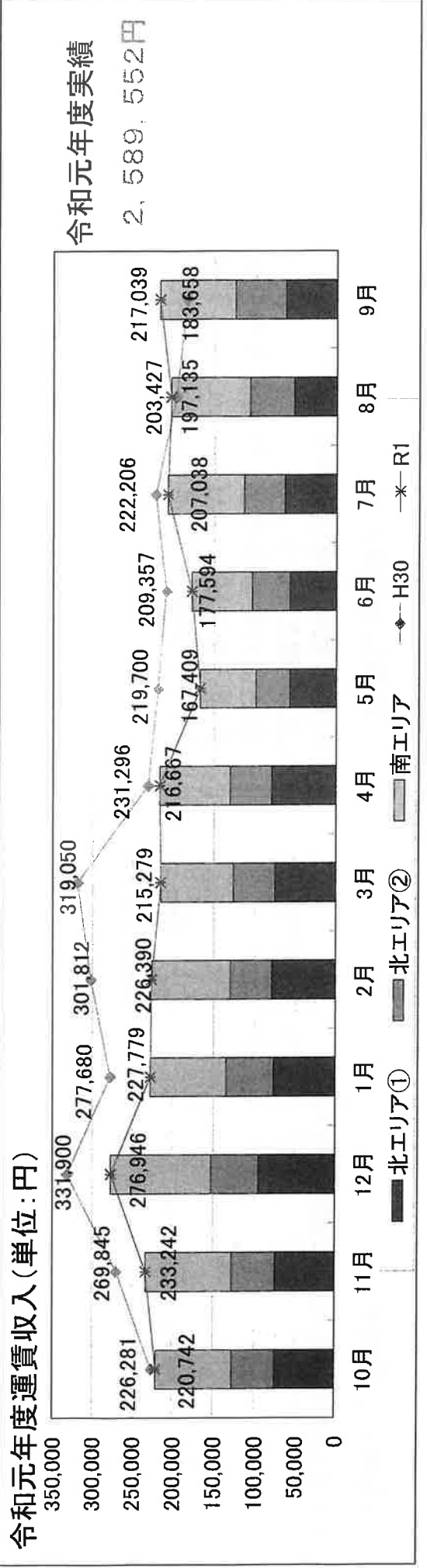
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

利用者数は目標値を達成できていないが、直近年度の実績値より増えている。
交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通を確保するため運行を継続していくとともに、引き続き積極的な周知活動を行い、必要に応じた改善に取り組んでいく。

6) 目標・効果達成状況

【1便あたりの利用者数】

目標2・08人に対して実績1.78人(直近年度の実績1.75人)

【年間利用者数】

目標10,400人に対して実績8,431人(直近年度の実績8,298人)

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和2年度分と併せて評価)